

## 趣意書

謹啓

時下、貴社におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より格別のご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この度、第 47 回日本手術医学会総会を、2025 年 11 月 14 日（金）・15 日（土）の二日間、広島国際会議場で開催する運びとなりました。

本学会は、手術医学に関わる全ての職種が関連し手術医療の安全で有効な運用および学術研究を発表する場として 1979 年に手術部研究会として発足し、1993 年に日本手術医学会と改称、2022 年には一般社団法人として法人格を取得し今日に至ります。現在の正会員数は約 1,400 名です。広島で本学会総会を開催するのは長い歴史の中で初めてとなります。

現在の手術医療では、内視鏡手術、ロボット支援手術、ハイブリッド手術、術中 MRI 手術など高度先進医療が実践され 20 世紀には予想できなかった速度で進歩しています。しかしながら、それを支えるには単に手術手技や麻酔管理にとどまらず、周手術期看護、人材育成、予算管理と適切な執行、環境管理、医療機器管理、薬剤管理、滅菌器材の品質管理や物流管理、映像を含めた情報管理など基本的な手術医療の周辺業務の進化が必須です。また、手術医学として学術的な研究も不可欠です。そこで、今回の総会のテーマを「命を守る手術医学 - 現在地と未来展望 -」とさせていただきました。手術部にかかわる多職種が一堂に会して、手術医療の運用、管理、実践、研究の現在地とこれからの進歩、展望について発表、考察、議論の場を提供できればと存じます。

本来であれば、学会総会の開催費用は学会会員の参加費用で賄われるべきではありますが、会場費や諸般の経費の高騰により全体予算が不足することが予想されております。無駄を省き華美にならぬように運営する所存であります。当学会および手術医学の分野に関連されるご関係者の方々におかれましては本学会の総会開催の趣旨にご賛同いただき、セミナー、機器展示、広告など各種共催・協賛につきまして格別のご高配をお願い申し上げます次第でございます。

本来ならば参上し拝眉の上お願いすべきところでございますが、本書面をもちましてご挨拶とお願いを申し上げますことをご容赦いただければ幸甚でございます。

末筆となりましたが、貴社の今後のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

謹白

2024 年 12 月吉日

第 47 回日本手術医学会総会

会長 仁井内 浩

(広島大学病院 手術部部長)

